

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 11 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472501349		
法人名	医療法人社団 光誠会		
事業所名	グループホーム サンハートホーム		
所在地	東広島市福富町久芳3694-12 (電話)082-430-1321		
自己評価作成日	令和3年9月13日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3472501349-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 3 年 11 月 9 日 (火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域密着型の施設の利点を活用して、地域の方がいつでも気軽に立ち寄れる場所であり、また、入居者の方には、明るい笑顔が絶えない暖かい施設で安心して生活ができるように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームサンハートホームは、周囲の風景にも溶け込んだ民家風の本造平屋建てで、元村役場跡という事もあり、駐車場も広く、隣接した空き地には、木々が植えられ、畑作りにも力を入れている。いつもの年なら、近くの認定こども園児達が、芋掘り等して交流していたが、今年は、コロナの関係で、出来なかった。施設理念である「ご入居前の、ご自宅での今まで通りの生活を身体的・精神的に続けられるように致します。」を掲げ、入居者一人ひとりにあった生活スタイルを持続出来るよう支援している。管理者の何気ない言葉の中に（入居者さんのぬり絵の色使いから、ご本人の認知度の変化を感じ取られ、対応される等）一人ひとりきめ細かな変化を見逃されない事に家族も安心して任せておられる様、感じ取る事が出来た。1ユニットでもあり、家庭的な環境と地域住民との交流を通して、日々利用者がその有する能力に応じた自立した生活が送れるように支援している。

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入居者様、お一人お一人の思いに添った日々の過ごし方を考慮して、いつまでもご自分の事が自分で出来、また他入居者様との関わりが持てるように支援を行っている。	施設理念である「ご入居前の、ご自宅での今まで通りの生活を身体的、精神的に続けられるように致します。」を玄関ホール・リビングルーム・事務所に掲げ、職員が、常に目に触れる所にあり、皆で共有し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者様が地域との繋がりが持てるように、この時期ですが、地域の行事等には、入居者様とともに積極的に参加するように努力しています。	日常に於いて、近所の方が、畑で出来た野菜や手作りの差し入れをして下さったりと地域の方との交流もあり、認定こども園児との交流も積極的で、又、ふれあいの会での集いの場等で、楽しく交流し、地域で繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の交流の場所、イベントなどに職員が協力できることがあれば参加し、協力するようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回の頻度で家族・包括支援センターの職員・民生委員・本部長・管理者・ケアマネの出席で開催していますが、9月は書面により実施、皆様の意見・要望聞いて、それらをサービスの向上に生かしています。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しているが、コロナ禍においては、書面開催も余儀なくされていた時もあった。しかし、その時には、運営推進会議の構成委員の方から、意見やアドバイスを頂き、運営に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市のケア会議研修等への参加・オレンジ交流会等開催があれば参加し、情報収集しています。市町の担当者に相談事や疑問点等の説明を受けています。	市のケア会議研修や地域包括支援センターが、主催するオレンジ交流会に参加協力したり、意見を聞いて協力関係を気付いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	不安を取り除く声掛けや見守り等を行うとともに入居者様の安全を優先しています。やむを得ず玄関に施錠しますが、家族の了解のもとで行っています。	3ヶ月に1回、身体的拘束廃止委員会を開催し、事例検討等提示して、職員に周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ない事情がある場合には、ご家族と相談の上、方針を決定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修を受けて取組みに強化をしています。言葉のかけ方、対応の仕方等、職員一人一人が虐待に持ってにゆうkに対する認識を持って入居者のケアに当たっています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	必要があれば、活用できるように支援します。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居者様やご家族の方に理解・納得していただけるように説明を行っています。また、改正等があった場合は都度説明・了承を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を玄関入口に設置して、いつでも意見・不満・苦情がえるようにしている。また苦情窓口を設け第3者委員会を設置している。日頃から入居者様やご家族との話しやすい関係づくりを心掛けて実践しています。	日頃から、家族の面会時にその都度、意見や要望を聞き対処している。(個別レク・新聞の切り抜き・ぬりえ等)	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議で職員からの意見・提案また気づき等を話し合っている。また、ケアプランや日常のケアの方法などの検討等は随時検討を行い今後に役立つ内容の意見交換を行い実践しています	日常の業務の中で、その都度、管理者に話したり、月1回の職員会議の中で、運営面だけに限らず、ケアサービスへの個々の提案等話し合い、積極的に意見を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務態度・介護状況を把握している。職員個々との関係づくりをしながら声掛けや激励をするようにしています。働きやすい職場づくりにと心掛けています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	講習会などへの参加を勧めている。受講後は皆が情報を共有出来るように職員会議などの機会でも伝達・報告をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホーム・特養への訪問・ケア会議への参加等交流を通し情報収集をしてサービス向上の取組み・他事業者とのネットワークづくりをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要な支援		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご利用開始前の情報を集めご家族の方ともよく話し合い、ご希望や疑問な事をお聞きして対応することで安心して預けて頂けるよう信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談・面談時にはしっかりと話しを聴き、必要な支援を見極める、当施設を含め、他のサービスの紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の生活の中で入居者様から学ぶ事も多く、都度感謝の気持ちを伝えています。職員は入居者様の尊厳を大切にしている気持ちを持ち、言動に気をつけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様の状況などを面会や連絡がある時には、常に話しています。また、状況に変化があった時等、報告・相談をしながらいつでもご家族と共に支援をしている姿勢を持ち、入居者様とご家族の関係を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今、コロナ渦の関係で面会ができにくい状況でガラス越し・電話等による方法を取らせて頂いています。今迄の様に復活できればと思います。	馴染みの人や場所への継続を望んでいるが、コロナ感染予防対策の為、難しくなっている。そのような中でもサンルームで、ガラス越しでの面会やふれあいの会等の参加をして、出来る支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	食堂での座る位置などの配慮を行い、関わり合いを持ちながら快く過ごして頂けるようにしています。居間・食堂で出来るだけ一緒に過ごして頂き、入居者様同士が交流できるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	いつでも相談が出来やすいように声を掛けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、入居者様の日々の生活の中での会話や表情・行動から思いや希望・意向を把握するように努めています。	入居時に家族や本人の要望を把握しているが、機能低下により、今迄できていた事が出来なくなったりとその時に応じた思いや意向を把握して、可能な限り本人の意向に添った生活が出来るよう支援している。(新聞購読・クロスワードパズル・ぬり絵・計算ドリル等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様ご本人・ご家族、以前利用されていた事業者等からの情報収集を行い、入居前の生活状況等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日2回の申し送り・引継ぎの際に職員で情報を共有し、現況の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン更新時や入居者様の状態に変化があった時等、必要に応じて職員で話し合いを持っています。職員会議で現状の確認・モニタリングを行い毎月1回ケアマネがモニタリング記録をしています。また、全職員の意見・入居者様やご家族の思い等を介護計画に取り入れて作成しています。	介護計画は、長期目標は、6ヶ月に1回、通常3ヶ月に1回、見直しをしている。日頃の様子をモニタリング記録に記入し、それを基に今後どの様なケアサービスが適切かを話し合い、介護計画を作成している。状況が、変化した時には、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の変化、体調の変化それに伴うケア方法の変化等個別記録に記入しています。また記録からの情報を職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様やご家族の希望で受診困難な際の受診同行を行っています。主治医の往診を希望されている入居者様には往診をして頂いています。また、理容院からの出張カット等の利用しています。個々の日常生活に必要な物品の購入が困難な状態の入居者様には買物の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在は、ボランティア様の受け入れが難しく、色々な行事も取り止めになり、子供たちとの交流もかなわず、声がかかれば状況などを見て参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の变化等の記録をかかりつけ医受診の際、持参してもらっています。本人・家族が希望する医療機関・医師に受診や往診が出来るようにに支援しています。	提携医の往診は、月2回あり、今迄のかかりつけ医を主治医とされている方も居られ、今はコロナ禍という事もあり、職員が、受診に同行する。月1回、口腔衛生管理も行い、健康面で適切なサポートを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診時には体調の報告やその他の相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときには安心して治療に専念していただけるように居室の確保(短期利用での使用)を行います。また入院中の状況や今後の事の状態把握の為に、入院先との連携を取っています。退院時には、現状確認や退院後のケア等の情報を確認したり相談をしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	早い段階から話し合いを行い、関係者全体の方針を共有して支援に取り組んでいます。また、家族の意向を聞きながらホームで出来る事の確認や緊急時の受け入れ態勢を出来るだけ整えるように努めています。	契約時に重度化した場合や終末期における対応について説明している。医療面での治療が必要な場合は、入院治療となり、終末ケアは、難しいが、ホームで出来るところまでは、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救急講習・心肺蘇生法などを受講し、急変に対応できるようにしています。また、緊急時の救急車要請の方法の伝達・訓練・緊急連絡先網の活用などの情報を職員で共有しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練は消防署立ち合いのもとに指導を受け実施しています。自施設での自主的な訓練も実施しています。施設内に消火用バケツや懐中電灯等を設置し、週1回確認を行っています。	年2回の避難訓練を夜間想定も含め実施している。又、ホームでの自主的な訓練も実施しており、バケツに水を張り用意し(3ヶ所)、週1回、確認している。近所の協力体制もある。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様のプライドを尊重し、プライバシーを損ねないよう言葉かけや対応に注意しています。特に排泄や失禁時の対応・入浴時の対応には十分に配慮を行っています。	プライバシー保護のマニュアルを作成しており、年1回、研修も行っている。特に言葉には、お互い気を付け、注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で職員が入居者様とのコミュニケーションを十分とり、思いや希望が表出できるように努めています。いろいろな事に関して自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の生活時間の流れは入居者様のペースで過ぎて頂いています。職員が声掛けや提案はしますがご本人の希望に沿った過ごし方を支援しています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	普段使用しておられる化粧品やブラシ等、手になじんだものを使って頂いています。また、衣類をご自分の好みで選ばれて着られる方もおられます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をとり明るく楽しい雰囲気を中心掛けています。入居者様の好みの物、希望されるものを取り入れ、旬の食材を使用する等季節感を出しながら毎食手作りの物を提供しています。温かいものは温かく提供できるように努めています。	職員が、食材の買い物に行き、3食手作りの食事を提供している。敬老会には、スタッフが、心を込めて賑やかに祝い膳を作られた。おやつも職員の手作りで、おはぎやフルーツ大福やパンケーキ等、楽しみにされている。自前の野菜も食卓に並ぶ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の摂食状況や水分摂取量の把握をし、記録しています。個々の摂食状況に応じた食材の形状・量・温度等に配慮して完食できるように努めています。また、必要な方には嚥下状態に応じ、トロミをつけたものを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に個々に応じた方法での口腔ケアを実施しています。毎日の口腔ケアの状況をチェックシートに記録をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立の方・声掛け・サインを見て随時誘導・定期誘導等個々の排泄状況に合わせた排泄ケアを実施しています。排泄状況の記録をしています。	一人ひとりの部屋にトイレが設置しており、気兼ねなくトイレでの排泄が出来る。排泄チェック表により、排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。布パンツの方も居られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の食事状況や水分摂取量・排便回数・排便の確認を記録しながら排便の有無・形状等に注意して便秘気味の方には水分補給や排便コントロール(指示の物)を行い、スムーズな排便が出来るようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は個々に週2～3回の対応でしか行えていませんが、入浴時にはゆったりと入浴して頂けるように十分時間を取り楽しんでいただけるように心掛けています。状況によってはシャワー浴の場合もありますが清潔保持と気持ち良さを感じて頂けるように努めています。	週2～3回、入浴支援を行っている。体調に合わせて、シャワー浴や清拭の方も居られる。入浴拒否される方は、入浴の順番を変更したり、人を変えたりして、清潔保持を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食堂で過ごされながら休息を取られる方、居室に戻られて過ごされる方、それぞれの過ごし方を尊重しています。夕食後は、それぞれのペースで居室に戻られるのでそれに合わせた就寝ケアを行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者様の病気を把握して主治医からの薬の変更の指示や病状の変化などを申し送り、記録を取って服薬支援を行っています。また、薬の変更があった際は変化等様子観察を行い、必要な時は主治医への報告・相談をしています。		

グループホーム サンハートホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の楽しみや得意な事を把握して自信を持って、取り組めるレクリエーションの提供や季節の行事を取り入れたり、手作りおやつやドライブ等で気分転換を図ったり張り合いのある時間の提供に努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	周辺の散歩やドライブ、地域の行事への参加等外出支援を行っています。また、ご家族に協力頂いて外出や会食に出かけられていましたが今は、制約させて頂いています。	周辺の散歩や日向ぼっこしながら、外気浴するよう努めている。時には、花見や紅葉狩りに出掛けている。又、寺で、行われるふれあいの会にも参加している。コロナ禍が、終息した折には、出掛けられるよう予定している。	現在コロナ禍においては、外出が難しい中、ホームの広い敷地内で、外気浴をしたり、ドライブに出掛ける等して、出掛ける機会を持たれる事を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族に相談の上、施設で管理しているご本人様の所持金で必要物品の購入や、受診時の支払い等を支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話を掛けることや、手紙を出される事への支援を行っています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関周りや居間のテーブルに季節の花を飾り(時には近所の方から頂いた花)、暖かくつるげる雰囲気づくりを心掛けています。畳の部屋もあり自由に過ごして頂ける空間があります。季節や天気わかる大きな窓のあるサンルームでは日向ぼっこや談笑をしてもらっています。各居室のトイレや共用スペースのトイレの匂い等には、消臭剤などを利用して不快にならないように配慮しています。食事の支度の匂いや音等日常生活を感じてもらえるようにしています。	玄関ホールや廊下・居間・和室・サンルーム等、一つ一つゆったりとした広いスペースが取ってあり、車椅子でも自由に移動出来る。天井も高く天窓があり、明るく、通気性もある。その人にとっての居心地の良い場所があり、壁面には、利用者と共に作成したパズル画や折り紙作品やぬり絵が掲示してあったり等、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共同スペースの中にいつもの自分の場所がそれぞれに確保されています。顔なじみの方と過ごしたり、テレビを見られる場所に移動されたり、思い思いに		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室に入居者様を使い慣れた日用品や身の回り品を持ち込んで頂いています。自分の部屋で心地よく過ごして頂けるようにしています。また、個人で自由に使用できるトイレと洗面台が居室に設置してあるので気兼ねなく使用して頂けます。	居室には、利用者にとって、馴染みのあるタンスやテーブル・テレビ・家族写真・アルバム・ぬいぐるみ等を持ち込み、又、トイレや洗面台も設置してあり、本人が、ゆったりとした暮らしが出来る環境で、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物全体がバリアフリー構造で、手すりも随所に設置してあります。歩行者や車椅子での対応も可能です。また入居者様の不安お和らげる為の表示等工夫しています。		

Vアウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

グループホーム サンハートホーム

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム サンハートホーム

作成日 令和3年11月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	外部研修参加したいが現状では、開催がなく難しい。	研修の開催を待つ。	開催のチェックをする。	1年
2	49	外出が少なくなっている	近場で外出を行う。	車から降りゆっくりする事が難しいので、ドライブだけでもする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。